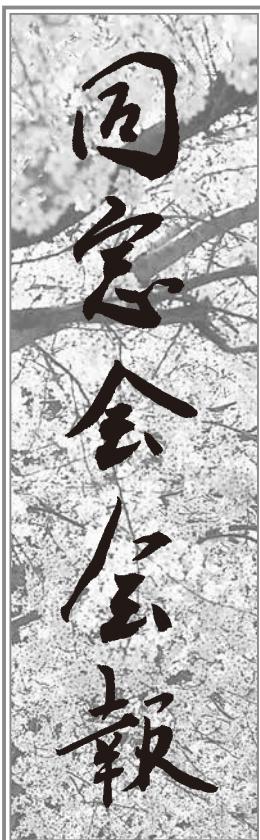




福島東高等学校同窓会長

創立半世紀に向けて



発行
福島東高等学校同窓会
住所 福島市浜田町12-21
(024) 531-1551
発行人 佐戸川 政実
題字 三浦賢一先生
編集 福島東高等学校
同窓会事務局
印刷 民報印 刷

過去の同窓会会報の
バックナンバーは同窓
会Webサイトで閲覧
可能です。
下記QRコードを読み
取るか、「福島東高校
同窓会」で検索または
URLを直接入力して
ください。



本校一期生で、同窓会長を務めさせていただいております佐戸川政実と申します。生徒、教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、同窓生の皆様におかれましては日頃から「東高応援基金」を通じ本校生徒へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

まず、現役の後輩たちの素晴らしい活躍に心からの賛辞を送りたいと思います。開校から続く校訓「創造」「協調」「躍進」、

また、部活動においても、男子テニス部がインターハイ出場、全国総文には書道部生徒一
名が初出場など素晴らしいパ
フォーマンスで、多岐にわたる
分野でその才能を發揮していま
す。彼らの努力と情熱は、私た
ち卒業生にとっても大きな励み
となつております。

次に、日々生徒たちの成長を
支えてくださっている教職員の
皆様に、深い敬意と感謝の意を
表したいと思います。先生方の
熱心な指導と温かいサポートが
あってこそ、後輩たちは自信を

校は「文武両道」のもと、令和五年度は国公立大学合格八十四名、私立大学合格二百七十三名。難関私立大学への合格者もあり、勉学で数々の成果を上げております。

持つて未来に向かって進むことができるのです。私たち卒業生が、当時の先生方から受けた教えを胸に、それぞれの道で努力を続けております。

わが身を恥じるばかりです。
そんな私たち一期生もいつし
か大人になり歳を重ね、母校を
懐かしむ余裕ができ、十年前、
五十歳の節目に有志で一期生の

方々もお歳は召されてはいます
が矍鑠とされ、まだまだお元
気。東高勤務時の苦労話には感
謝しかありません。

唯一、校内に満ち溢れていたのは先生方の「情熱」。歴史ある他の進学校に追い付け追い越せと、授業も部活動も熱氣あるものでした。残念ながら、我々生徒たちは呑気で気ままな学校生活を送つておりましたのでご迷惑も多々お掛けしており、恩師の方々のご苦労もつゆ知らず、

ブルも音楽室も図書館も、そして部活動する部も校歌も無い。まさに“無い無いづくり”。高校生活の始まりでした。現役の後輩の皆さんには、ピンとこないかもしれませんのが、ついでに「先輩」もいませんでした。

を思い出しています。

催) でお披露目されました。当

行いました。卒業以来四十二年
余り、音信の途絶えていた同級
生との連絡は様々な手段を用い
何とか消息を確認。何度も実行
委員会を開催し、当日は同級生
四十二名の参加、恩師五名のご
臨席を賜り大いに盛り上がりま
した。お互に寄る年波には抗
えず風貌は変われども、ひとた
び語り合えば当時の思い出話に
花が咲きます。また、恩師の

「ル」の旗を眺めては青春時代を思い出しています。

わが身を恥じるばかりです。
そんな私たち一期生もいつし
か大人になり歳を重ね、母校を
懐かしむ余裕ができ、十年前、
五十歳の節目に有志で一期生の
親睦会「一桜会」を立ち上げま
した。一桜会旗も作り、集まる

くしくせよ青春時代」の部分は、現役当時はどこかまだ先の話のような感覚でした。しかし、還暦を迎えた自分たちに置き換え、これまでの人生を振り返るとまさに青春時代を思い返し心に沁みました。全員が輪になり、肩を組み大声で歌いました。本当に福島東高の卒業生で良かったと実感しました。

祭（非公開・文化センターで開催）でお披露目されました。当時からモダンなメロディーで「顔を上げてわれら開かれた道を行く」は自然と心に響きました。一方で「今日は明日の歴史新しい伝統」「はげしい心うたたな」た。

一桜会開催、母校に浄財の寄付も



令和六年度で還暦を迎える一期生が、十月五日、ホテル福島グリーンパレスにて東高一期生の同窓会「一桜会」を開催しました。発起人代表である渡邊浩二さんが会長を務め、四十名の一期生と五名の恩師の先生が出席し、懐かしい思い出話に花が咲きました。参加者からは母校の後輩のために役立ててほしいと多くの寄付が寄せられ、集まった十二万円の浄財が、十月二十八日に小林校長立ち会いのもと、渡邊一桜会会长から佐戸川同窓会会长に手渡されました。寄付金は同窓会を通じて在校生の学校活動に役立てられます。

東高等学校への期待を込めて、今後の発展を心よりご祈念いたしました。これからも地域に根ざし、未来を担う若者たちを育てる場として、ますます輝かしい歴史を刻んでいくことを願っています。同窓会としても、母校の発展に寄与できるよう、様々な活動を通じて支援を続けてまいります。

本校は五年後に創立五〇周年を迎える。校歌の通り、「はげしい心うつくしくせよ青春時代」、「新しい伝統」を体現できる学校です。これは創立時から教鞭を取る傍ら、教え子の成長に愛情をもつて接してくださつ

た教職員の皆様、保護者の皆様、そして何よりも卒業生の活躍があつてのことと心より敬意を表します。同窓会としては創立五〇周年を関係各位とともに歴史を振り返り、喜びを分かち合う機会を設けたいと考えております。その節はご協力とご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、後輩生徒の皆さんを含め同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。これからも福島県立福島東高等学校の一員として、共に歩んでまいりましょう！



福島東高等学校一期生「一桜会」還暦を祝う会

＜事務局より＞

今後、同窓会の開催について、同窓会報やホームページ等を通じてお知らせを掲載することが可能です。事務局までご一報いただければと思います。

2期生同窓会の開催について

令和7年11月開催予定(詳細は未定)

今夏に通知予定

*宛先不明者の情報を東高同窓会事務局にお寄せください

*個人情報は2期生への連絡以外に使用しません

文責 今野充宏(2期生・元同窓会事務局)

「変革の時」

福島東高等学校長 小林寿宣



「目指すべき姿」として掲げ、「学びの変革」と「学校の在り方の変革」を両輪とした改革を進めようとしています。「Well-beingの実現」には、もちろん教員も含まれています。

同窓会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。さて、今、教育界は大きな変革の時代を迎えています。背景としては、福島県の学力向上はもちろんとして、深刻なのは、学校を支える主体である「教員」を志す人材の減少により、学校の教育力の低下が懸念されることです。教職が敬遠される理由としては、教員の多忙化があり、ひいては学校という職場のブラックイメージが挙げられます。このように、教員の働く場所としての学校の在り方や教育課程を見直していくという

機運が全国的に高まり、福島県においても第7次福島県総合教育計画において、「個人と社会のWell-being（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）の実現

これが、新しい学校を創つて、こうという東高の動機です。

一方で、学校を取り巻く教育界は、近年大きく変化しており、

例えば、2020年度まで実施された大学入試センター試験に代わって、「大学入学共通テスト」が導入され、また、今年1月に実施された共通テストから

教科「情報」の試験が新たに加わっています。さらに、大学で

は、「探究的な学び」などの取り組み状況などが評価される『総合型選抜（小論文や面接などで、高校時代の主体的な学びを中心にして人物を評価する選抜制度）』を実施する大学の数や定員に対する割合が増加傾向にあります。子どもたちは、試験の成績ばかりではなく、「自分自身が世のためにはどのように貢献できるのか」、「そのために、どのような実践を行ってきたのか」が重視される厳しい時代になつてきます。

30分程しか残されておらず、次の授業の準備や役割分担された業務、会議、部活動を行う十分な時間はありません。すなわち、生徒も教員も時間的な余裕がないというのが現状なので

です。この状況は、日頃からの対話不足を生み出し、学校の改善にも手が付けられない悪循環となります。「変わらない学校」を作り上げてしまう懸念があります。

これらを背景にして、現在、

東高は令和7年度入学生から授業を1日6時間とする教育課程改革を行っています。同時に、

再構築に取り組んでいます。そ

の一環として、「学力向上ビジョン」として、次の3つの事項を

充実」です。探究活動とは、自分あるいはグループで設定した

テーマについて、調査・実践、

分析、まとめ、発表などの過程

を繰り返しながら、考えを深め

ていく教育活動であり、テーマ

を深く追究できること、さらに、

探究の過程で、人とのコミュニケーションや表現力などの力

をはじめ、学校で学んできたあ

らゆる教科の力が必要とされる

活動です。鍛えることから、そ

の充実を図つてまいります。2

つ目の柱は「見えない力の育成」

です。「見えない力」とは、数字

では表すことの難しい、「～が好

き。～したい。」という主体的な

感情やチャレンジ精神などの力

であり、社会を生き抜くための

「たくましさ」とも言える力で

す。本校では、これまで「文

組むべき課題が山積する中で、

学校が停滞し現状が変えられないのだとすれば、事態は重症だ

と言えます。

結びになりますが、東高は今、

「変革の時」を迎えてい

ます。ご

紹介しました私たちの挑戦は、

皆様方の応援なくしては成り立

ちません。改めて、皆様のご理

解とご協力をお願い申し上げる

とともに、これから東高の発

展にご期待いただければ幸いです。

で、部活動はもとより、学校の

教育活動全体で一層強化してま

ります。3つ目の柱は、「7時

間目の時間の有効活用」です。

現在、ワーキングチームを組織

して、これまでの7校時目の時

間（これから放課後の時間）

を有効活用するため、検討を重ねております。暫定的な案ではあります、少々紹介いたします

と、「生徒との面談を教育活動の中心においた指導体制の構築」を目指す方向で検討してい

ます。大学などの上級学校に進学するためには、進路目標を見定め、効果的な学習方法を確立しつつ、学習時間を確保すると

いった3要素が重要ですが、そ

の3要素を向上させるためのア

プローチが「生徒の面談（対話）」であるというのがコンセプトです。これまでにない新しい挑戦ですので、今後、さらに検討を進め、県内外に誇れる、先進的な東高を創造していく考えです。

「見えない力」とは、数字

では表すことの難しい、「～が好

き。～したい。」という主体的な

感情やチャレンジ精神などの力

であり、社会を生き抜くための

「たくましさ」とも言える力で

す。本校では、これまで「文

組むべき課題が山積する中で、

学校が停滞し現状が変えられ

ないのだとすれば、事態は重症だ

と言えます。

令和5年度 岁入歳出決算書

歳入金額	5,437,211円
決算金額	4,085,523円
差引残額	1,351,688円

1. 岁 入

▲は増加 単位:円

項目	5年度予算額	5年度歳入額	比較増減額	備考
入会金	1,398,000	1,398,000	0	6,000円×233人
会費	1,398,000	1,398,000	0	6,000円×233人
前年度繰越金	1,738,998	1,738,998	0	
雑収入	102	120,066	▲119,964	利息(¥66)、総会会費(¥120,000)
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	782,147	17,853	クレジット(¥167,874)・コンビニ(¥472,732) 郵便(¥141,541)
合計	5,335,100	5,437,211	▲102,111	

2. 岁 出

項目(科目)	5年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
総務費	160,000	17,000	143,000	
会議費	150,000	13,000	137,000	役員会旅費
旅費	10,000	4,000	6,000	全国大会激励金贈呈式、 同窓会入会式
需用費	0	0	0	
総会費	50,000	279,150	▲229,150	
運営費	50,000	279,150	▲229,150	
事業費	445,100	383,370	61,730	
卒業記念品費	190,100	184,060	6,040	卒業証書ホルダー
広告費	155,000	130,340	24,660	野球、サッカー、バスケ等の応援広告
サブ運営費	100,000	68,970	31,030	
会報費	680,000	661,155	18,845	
印刷費	600,000	583,275	16,725	会報印刷費
名簿管理費	80,000	77,880	2,120	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	1,450,000	1,357,298	92,702	
会報郵送費	1,400,000	1,334,141	65,859	会報発送費
通信費	50,000	23,157	26,843	連絡用はがき通信費
在校生支援費	2,000,000	975,550	1,024,450	
在校生支援事業	1,000,000	975,550	24,450	全国大会激励金、定期演奏会等補助、 部活動・委員会支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	1,000,000	0	1,000,000	
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予備費	150,000	12,000	138,000	会費等返金
合計	5,335,100	4,085,523	1,249,577	

* 項目科目間の流用を認める。

令和6年度 岁入歳出予算書

歳入金額	4,985,800円
歳出金額	4,985,800円
差引残額	0円

1. 岁 入

▲は減少 単位:円

項目	6年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
入会金	1,392,000	1,398,000	▲6,000	6,000円×232人
会費	1,392,000	1,398,000	▲6,000	6,000円×232人
前年度繰越金	1,351,688	1,738,998	▲387,000	
雑収入	112	120,066	▲119,954	預金利息
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	850,000	782,147	67,853	東高応援基金より
合計	4,985,800	5,437,211	▲451,411	

2. 岁 出

項目(科目)	6年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
総務費	147,000	17,000	130,000	
会議費	100,000	13,000	87,000	役員会旅費
旅費	10,000	4,000	6,000	入学式・卒業式等の役員旅費
需用費	1,000	0	1,000	
事務局費	36,000	0	36,000	
総会費	0	279,150	▲279,150	
運営費	0	279,150	▲279,150	
事業費	420,000	383,370	36,630	
卒業記念品費	190,000	184,060	5,940	卒業証書ホルダー
広告費	150,000	130,340	19,660	野球、サッカー、駅伝、バスケ等の応援広告
サブ運営費	80,000	68,970	11,030	
会報費	680,900	661,155	19,745	
印刷費	600,000	583,275	16,725	会報印刷費
名簿管理費	80,900	77,880	3,020	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	1,520,000	1,357,298	162,702	
会報郵送費	1,500,000	1,334,141	165,859	会報発送費
通信費	20,000	23,157	▲3,157	返信用はがき後納、切手等
在校生支援費	1,800,000	975,550	824,450	
在校生支援事業	1,000,000	975,550	24,450	上限年額100万円の支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	800,000	0	800,000	上限年額100万円の支援
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予備費	17,900	12,000	5,900	会費等返金
合計	4,985,800	4,085,523	900,277	

* 項目科目間の流用を認める。

今後の同窓会報について(お知らせ)

同窓会会員の皆様へ向けて重要なお知らせがございますので必ずご一読ください。

今回で第21号の同窓会会報を発行し、現在1万を超える会員の皆様にお手元に郵送で会報をお届けしております。しかし、昨年10月に郵送料の値上げ、物価高の影響による印刷費の値上げがあり、会報の発行に際して膨大な費用がかかっております。

そのため、昨年度の役員会で議題に上げ、今年度の役員会でも検討を進め、今後の同窓会報の発行、発送を含めた同窓会報の在り方について以下に記載のとおりとしたいと考えております。なお、このことについてご理解をいただければ幸いです。

【今後の同窓会報について】

①今年度(令和7年3月発行分)はこれまで通りの複数ページの冊子形式での発行、郵送で会員お一人お一人に発送する。

※同窓会報の在り方に関する記事の掲載

②次年度(令和7年12月発行予定分)より、記事内容を縮小したダイジェスト版(A4版)を発行し、郵送する。また冊子形式の完成版は「デジタル版会報(仮)」として同窓会専用ホームページに掲載。在校生分のみ印刷。

※試行版としてダイジェスト版を作成し郵送しますが冊子版は郵送しない(予定)

会員の皆様より御意見をいただきながら郵送についても検討。

③令和9年3月発行予定分より、会員向けとしては「デジタル版会報」へと完全移行。在校生分のみ印刷。

※あくまで予定ですので、今後の役員会、総会において決定していきます。

【東高応援基金】

協賛者名

※()は卒業期、()は旧姓 (敬称略)

卒業生

尾形信裕(1)尾形幸男(1)阿部宗弘

伊藤雅信(1)菊地浩二(1)森隆行

(1)西山尚利(1)遠藤勝利(2)佐藤健

(2)津田克也(2)阿部浩行(2)斎藤健

藤広彰(2)佐藤宏樹(2)塙谷卓也(2)

千葉悠太郎(22)伊達孝典(23)菅野貴

文(24)國分優佳(24)鹿江(阿部)真

理子(25)佐久間健太(26)千代間祥之

塙谷昌之(27)吉山彩佳(27)松浦由

地利穂(30)大賀秀人(31)豊田大智(31)

樹(27)三浦崇悦(28)平栗由香(28)西谷

佐藤大輔(32)渡辺聰(32)金子耕也(32)

鈴木蓮(33)大和田裕日子(34)加藤沙

和子(35)長谷川遼(35)鈴木あきよ(35)

奥崎綾介(37)中村理子(39)安齋由一

郎(41)

藤(古関)徹(5)遠藤直人(6)桂山

洋幸(6)鈴木一義(6)丹治紀昭(6)宍

戸敢(7)渡部泰史(7)佐藤仁一(7)

中村(半澤)孝雄(7)東城幸治(8)

安齋晃(8)梅宮克美(9)佐藤浩規(9)

裕哉(5)秋葉忠義(5)鈴木秀行(5)齋

21期生の熊本昇太郎様が令和6年5月19日にご逝去されました。その後、本校への感謝とい

うお気持ちからご遺族様より3,000円を応援基金として

いただきました。なお、ご遺族様から同窓生の歌川裕規様を通じてお振込みいただきました。

熊本様の御冥福をお祈りいたしま

すとともに、ご遺族様、歌川様にも感謝申し上げます。

(18) 柿原千佳(18)菊田雄一郎

(19) 佐藤幸恵(20)羽田真幸(20)渡邊雅

敏(20)田村大信(20)熊本昇太郎(21)齋

藤広彰(21)佐藤宏樹(22)塙谷卓也(22)

千葉悠太郎(22)伊達孝典(23)菅野貴

文(24)國分優佳(24)鹿江(阿部)真

理子(25)佐久間健太(26)千代間祥之

塙谷昌之(27)吉山彩佳(27)松浦由

地利穂(30)大賀秀人(31)豊田大智(31)

樹(27)三浦崇悦(28)平栗由香(28)西谷

佐藤大輔(32)渡辺聰(32)金子耕也(32)

鈴木蓮(33)大和田裕日子(34)加藤沙

和子(35)長谷川遼(35)鈴木あきよ(35)

奥崎綾介(37)中村理子(39)安齋由一

郎(41)

藤(古関)徹(5)遠藤直人(6)桂山

洋幸(6)鈴木一義(6)丹治紀昭(6)宍

戸敢(7)渡部泰史(7)佐藤仁一(7)

中村(半澤)孝雄(7)東城幸治(8)

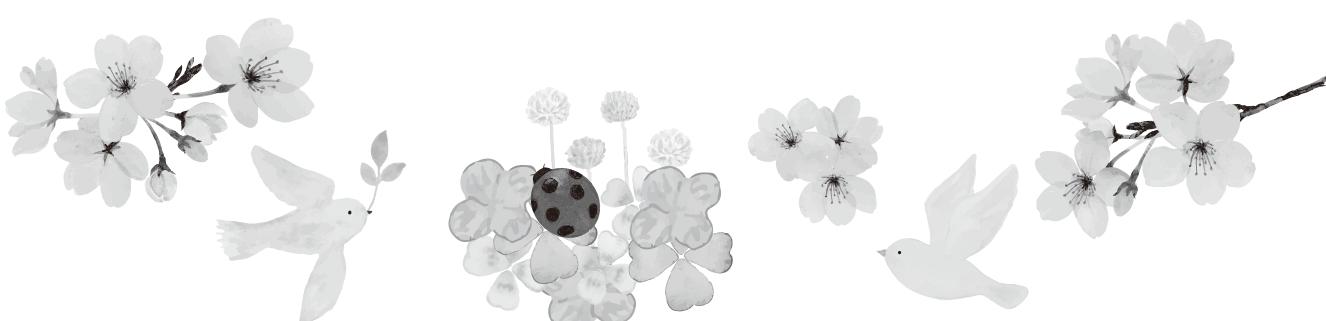
安齋晃(8)梅宮克美(9)佐藤浩規(9)

裕哉(5)秋葉忠義(5)鈴木秀行(5)齋



東高校応援基金について

同窓会では、東高校応援基金によりいただいた資金をもとに在校生支援事業を行っております。同封の振込用紙に加え、同窓会サイトよりWeb上で決済いただけるようにしております。QRコード先のリンクから応援基金のページへ移動できますので、ご活用ください。



福島東高校の卒業生から学ぶ

パリパラリンピックに
参加して

福島県立大笹生支援学校教諭

二階堂俊介(十三期生)



皆さん、はじめまして。私の東高での思い出といえば、やはり部活動です。バスケットボール部に所属し、チームメイトと一緒に練習を乗り越え、チーム全員でウインカーカップの出場を勝ち取った喜びは今でも鮮明に覚えています。その後、大学でも競技を続け、卒業後は、イギリスでの障がい者ボランティア活動などを経て、福島県立特別支援学校の教員となり、今年で22年となります。初任校として郡山市にある体の不自由な児童生徒が学ぶ、郡山支援学校に赴任しました。保健体育の授業の中でも宿を見学する機会がありまし

た。そこで見た選手たちは様々で、表情の荒々しさや車いすのコンタクトの激しさなど、緊張感のある練習を目の当たりにして、勝手に想像していた「障がい者スポーツ」の概念が壊れ、車いすバスケットボールにのめり込んでいきました。その後、審判員として携わるようになります。教員生活の傍ら「ライフワーク」として審判活動をしていました。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的に一人での渡航・移動となります。また初めて会う他の国の人々とコミュニケーションとしての責任を感じたこと覚えています。約1ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。

パリ市内にあるベルシーアリーナという車いすバスケットボールの会場は、数週間前に閉幕したオリンピックのバスケットボールと同じ会場で、コートもそのまま使用しました。一バ

た。そこで見た選手たちは様々な困難や障がいがありながらも、表情の荒々しさや車いすのコンタクトの激しさなど、緊張感のある練習を目の当たりにして、勝手に想像していた「障がい者スポーツ」の概念が壊れ、車いすバスケットボールにのめり込んでいきました。その後、審判員として携わるようになります。教員生活の傍ら「ライフワーク」として審判活動をしていました。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的に一人での渡航・移動となります。また初めて会う他の国の人々とコミュニケーションとしての責任を感じたこと覚えています。約1ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。

大会では女子準決勝など7試合を担当しました。最終日には無事に任務を務めることができた安堵感と同時に、自分の中で目標としていた

見をしつかり伝えることもとても重要になります。さまざまなものや文化や生活習慣を知り、互いに認め合い、尊重することも大切だと感じています。また、語学力の向上は今でも課題となっていますので、英語の学習を続けています。学生時代にもつとしっかり勉強していれば、と今更ながら後悔しています。

そして昨年9月、目標としていた2024パリパラリンピックとして審判活動をしていました。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的に一人での渡航・移動となります。また初めて会う他の国の人々とコミュニケーションとしての責任を感じたこと覚えています。約1ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。

見をしつかり伝えることもとても重要になります。さまざまな文化や生活習慣を知り、互いに認め合い、尊重することも大切だと感じています。また、語学力の向上は今でも課題となっていますので、英語の学習を続けています。学生時代にもつとしっかり勉強していれば、と今更ながら後悔しています。

そして昨年9月、目標としていた2024パリパラリンピックとして審判活動をしていました。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的に一人での渡航・移動となります。また初めて会う他の国の人々とコミュニケーションとしての責任を感じたこと覚えています。約1ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。

見をしつかり伝えることもとても重要になります。さまざまな文化や生活習慣を知り、互いに認め合い、尊重することも大切だと感じています。また、語学力の向上は今でも課題となっていますので、英語の学習を続けています。学生時代にもつとしっかり勉強していれば、と今更ながら後悔しています。

そして昨年9月、目標としていた2024パリパラリンピックとして審判活動をしていました。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的に一人での渡航・移動となります。また初めて会う他の国の人々とコミュニケーションとしての責任を感じたこと覚えています。約1ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。

見をしつかり伝えることもとても重要になります。さまざまな文化や生活習慣を知り、互いに認め合い、尊重することも大切だと感じています。また、語学力の向上は今でも課題となっていますので、英語の学習を続けています。学生時代にもつとしっかり勉強していれば、と今更ながら後悔しています。



進路

進路指導主事

遠藤 順一

令和5年度の国公立大学合格者は九十八名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十四名、山形大学十三名、新潟大学十名、宮城教育大学六名、岩手大学四名、宇都宮大学四名、福島県立医科大学七名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成績が十五名合格という結果になりました。私立大学に関しては、三百七名（延べ人数）が合格しました。昨年同様、国公立大学・私立大学の推薦入試（学校推薦型・総合型選抜）に多くの生徒が挑戦しました。

四年前に「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に移行しました。また、二千零七年三月に告示された新学習指導要領は、現三年生（二千二十二年度の高校入学生）から導入され、今年度はプログラミングや情報セキュリティの基礎などを学ぶ「情報I」が全学年で必修科目となる完成年度となりました。

30年前18歳人口はピーコクで200万人でした。現在18歳人口

は100万人です。18歳人口はこの30年間で半分に減少しました。30年前4人に1人しか4年制大学に進学しませんでした。現在2人に1人は4年制大学に行くようになりました。30年前日本全国の大学数は50校でした。現在は800校あります。大学はこの30年間で300校も増えました。進路室には毎日いくつかの大学の広報担当者が訪れます。入試制度、そのほか、奨学金、留学制度など熱心に話をします。30年前と現在では教育も変わりました。30年前の教育はジグソーパズル型です。正解主義型、正解に向かってジグソーパズルをあてはめていくようなイメージです。一方、現在の教育はレゴブロックのイメージに近いかもしれません。一人ひとりが違った色や形で立体物をつくりあげるようなイメージです。教育が変わつただけでなく、学習や進路に対しての指導も変化しました。「興味関心が大切、やりたいことをみつけ、それを極めなさい」という指導に変わりました。もちろんその考え方や指導を否定はしません。しかし、徐々にその言葉が一人歩きして違う解釈が生まれてきてい

(表) 大学別合格者数 (令和5・4・3年度入試)

大学名	令和5年度生	令和4年度生	令和3年度生
北見工業大	0	1	1
北海道教育大(函館)	0	2	0
室蘭工業大	0	0	2
弘前大	1	1	0
岩手大	4	0	0
東北大	1	0	0
宮城教育大	6	3	1
秋田大	3	2	1
山形大	13	9	16
福島大	24	28	30
茨城大	2	3	1
筑波大	1	1	0
宇都宮大	4	2	0
埼玉大	4	1	1
新潟大	10	4	6
富山大	0	0	1
信州大	1	0	0
島根大	1	0	0
釧路公立大	0	1	1
青森公立大	0	1	1
岩手県立大	3	1	1
宮城大	2	1	0
秋田県立大	1	1	0
山保健医療大	1	0	0
会津大	1	1	2
福島県立医大	7	12	8
前橋工科大	0	1	0
新潟県立大	1	0	0
高崎経済大	4	1	0
群馬県女子大	1	0	0
長岡造形大	0	1	1
都留文科大	4	1	0
長野大	0	4	1
静岡文芸大	1	0	0
鹿屋体育大	0	1	0
その他	0	0	0
計	98	84	75

※令和4年度卒業より6クラス

大学名	令和5年度生	令和4年度生	令和3年度生
仙台大	1	2	5
東北学院大	62	46	82
東北福祉大	26	33	45
東北医薬科大	5	1	8
宮城学院女子大	5	7	21
東北芸術工科大	1	2	6
国際医療福祉大	5	8	11
白鷗大	16	12	29
獨協大	5	2	1
文教大	3	1	1
女子栄養大	1	0	2
神田外語大	1	3	2
淑徳大	3	1	5
青山学院大	2	1	1
亜細亜大	1	2	0
北里大	1	1	0
国士館大	0	2	0
駒澤大	0	1	0
専修大	3	0	3
大東文化大	7	1	12
玉川大	1	1	1
中央大	1	1	2
帝京大	2	3	2
東海大	19	14	15
東京工科大	1	0	0
東京農業大	3	2	12
東洋大	6	8	1
日本大	26	16	17
早稲田大	1	1	2
法政大	1	1	3
明治大	2	2	1
明治学院大	1	0	0
神奈川大	1	4	6
新潟医療福祉大	1	8	2
同志社大	2	2	2
その他	91	82	143
計	307	271	443

るようになります。つまり、「やりたくないものはやらないでいい」「本人がやりたいことがあるが一番いい」と私たちは自分に都合よく解釈することがあるように思えます。ぜひ考えたいのは、「学習とは大半がやりたくないもののように思えるけどやるべき値のあるものである」やりたいことがある大学や専門学校といいえば聞こえがいいですが、本当にそれだけでいいのか」ということです。

昭和から平成、令和へと時代は移り、教育に求められるものも大きく変化しています。前述のような教育・入試制度の変化、進路選択の広がりや働くことに対する価値観の多様化に伴うさまざまな課題が山積する中、東高も変化を求められています。東高生には、これから社会を生き抜いていけるタフな人材を目指してほしいと思います。東高生一人ひとりの力をより伸ばすために、これから東高はどうあるべきかを考え、さまざまに躊躇なくチャレンジしていきたいと思っています。

福島東高校四十二期生が卒業して、早くも一年が経とうとしています。この原稿を書いていたのは今年度の共通テストの直前。共テ前日の緊張した四十二期生たちの顔が鮮明に思い出されます。見事に自分の目標を達成し、晴れて志望校に合格、入学した人。悔しい思いを嘔みしめ不本意ながらも今の大手を選んだ人。捲土重来を期して浪人を選択し、二度目の大勝負の前で不安と緊張に押し潰されそうになつている人。同じ学び舎から巣立ちながら、四十二期生の選んだ道は多岐に渡ります。みんな、元気でやつてますか？ 今的生活は充実してますか、樂しいですか、時が経つのは早いですか？ それとも、苦しんでますか、悩んでますか、迷つてますか？ 我々四十二期担任は、君たちの進路選択と決定にどれほど力になれたでしょうか。決めた君たち自身だけは承知しないかも、あの時君たちにおくつたアドバイスは本当に今の君たちに役立つているのか、受験本

42期総括

42期学年主任 佐藤 道郎

◇はじめに

福島東高校四十二期生が卒業して、早くも一年が経とうとしています。この原稿を書いていたのは今年度の共通テストの直前。共テ前日の緊張した四十二

期生たちの顔が鮮明に思い出されます。見事に自分の目標を達成し、晴れて志望校に合格、入学した人。悔しい思いを嘔みしめ不本意ながらも今の大手を選んだ人。捲土重来を期して浪人を選択し、二度目の大勝負の前で不安と緊張に押し潰されそうになつている人。同じ学び舎から巣立ちながら、四十二期生の選んだ道は多岐に渡ります。みんな、元気でやつてますか？ 今的生活は充実してますか、樂しいですか、時が経つのは早いですか？ それとも、苦しんでますか、悩んでますか、迷つてますか？ 我々四十二期担任は、君たちの進路選択と決定にどれほど力になれたでしょうか。決めた君たち自身だけは承知しないかも、あの時君たちにおくつたアドバイスは本当に今の君たちに役立つているのか、受験本

番の季節を目の前にして自問自答する日々です。「総括」と言うほど大げさなものではありませんが、せつかくいたいたい機会なので四十二期がどんな学年だったのかを振り返ってみたいと思います。

◇学習・進路指導について

令和二年に十七年ぶりに戻った母校は、かつての東高と気質こそ違わねど、以前のような学習意欲むき出しに教師にぶつかつてくる生徒がほとんど見られず、おとなしくただただ受け身で学習させられている生徒ばかりという印象を強く持ちました。比較的高倍率の入試を勝ち抜き、東高生となつた四十二期生も同様でした。基本的生活習慣がきちんと身につき、気持ちよい挨拶ができる、清掃などの活動にも主体的に取り組める「東高生」としての美質は備えつ

て、集会、ホームルーム、学年通信などで繰り返し強調しました。とりわけ学年通信（DreamExplorer）は二ヶ月に一回程度のペースで、通算二十回以上発行しました。学年主任

の勝手な一人語りが多かつたのですが、学年として生徒諸君に今伝えるべきこと、伝えなければならぬことを文字化して届けました。細かすぎて読む気が起ららない」と保護者の方からお叱りを受けたこともあります

◇総合探究と行事について

推薦入学者が五割を上回る現行の大学入試では、いわゆる推薦入試に当たる総合型・学校推薦入試に当たる総合型・学校推薦型選抜でいかに希望する生徒を合格へと導くかが三年二学期の最大のミッションとなります。厄介なのは、昨今の推薦入試が以前のように部活動や生徒会活動の実績が特筆すべきストロングポイントにならないといふことです、高校で授業や校内での活動以外に、何をテーマとして何を主体的に学んできたか、それを語れなくては志願理由書にも直接にも対応できませ

ん。カギとなるのは、課題解決能力や将来の生き方を考える力を身につけることを目標とした「総合的な探究の時間」で、学年

も、学習意欲に乏しく進路意識も希薄な生徒が多く見受けられました。まぎりなりにも「進学校」としての実績を四十年余り積み重ねてきた歴史が「東高に入れば（自然どどこの国公立）大学に合格できるんじやね？」といった勘違いを生徒にもたらしているのではないかと思われました。なので、まずは先輩たちは東高に入学してから血の定着、三年次は理社を加えた総合的な入試対応力を養成を図つ

てきました。四十二期生の多くは、素直で何事にもひたむきに満ちるような努力を積み重ねて目標を達成してきたという事実をきちんと生徒に伝えることから始めました。そして目標なき努力は虚しいだけであり、早くから明確な進路目標を持つことだと思います。

学習指導に関して、四十二期がこれまでの学年と大きく変わった点はありません。常に進路委員会を意識させながら、日々の授業を大切にし、教科間のバランスを考えた朝学習や課題、課外や模試を設定することで、一年次は英数国基礎基本の定着、三年次は理社を加えた総合的な入試対応力を養成を図つ

てきました。四十二期生の多くは、素直で何事にもひたむきに満ちるような努力を積み重ねて目標を達成してきたという事実をきちんと生徒に伝えることから始めました。そして目標なき努力は虚しいだけであり、早くから明確な進路目標を持つことだと思います。

真摯に取り組む東高伝統の美点を備えていました。結果として前年度を上回る国公立大学合格者は、「授業を大切にする」「課題をきちんと提出する」「課外や模試は休まない」といった『平凡なる非凡』を体現できた生徒が多かつたからと今では確信しています。

は、素直で何事にもひたむきに満ちるような努力を積み重ねて目標を達成してきたという事実をきちんと生徒に伝えることから始めました。そして目標なき努力は虚しいだけであり、早くから明確な進路目標を持つこと

り、伝承館訪問の感想を動画にまとめたりと、体験を他者と共に有し、言語化してプレゼンする能力を養ってきました。二年次は「福島の課題を考える」というテーマのもと、原発処理水の問題を新地町の漁師さんと経産省の担当者という異なる立場にある当事者の話を聞き、自分たちなりの考えをまとめさせました、また、修学旅行での広島における平和学習のため、事前に松岡俊二先生（早稲田大学）と宮本ゆき先生（米デュポール大学）に講話をいただき、平和記念資料館見学の後には被爆者である切明千枝子さんの話を聴くことで、震災原発事故以降、福島の逃れられない呪縛となつている放射能の問題について、様々な考えに触れながら考察を深めていくことができました。

また、一月に実施した学問探究講座では、九人の先生をお招きしそれぞれの専門分野の先達の貴重な講義をしていただきました。中でも「子どもの貧困」で講義された『子ども食堂・吉井田キッキン』を主催する江藤大裕さんには、たくさんの四十二期生をボランティアとして引き

受けました。三年次は二年間の総探で学んだことを論文の形でまとめました。一年次からイベントごとの感想は必ずグーグルフォームで入力させ、そのたびごとにそれぞれが入力した内容や感想アンケートの回答などをしつこいくらいに生徒にフィードバックしてきました。そのため、自分の意見を率直にかつ相手の立場を尊重しながら伝える、アサーティブなコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身についた生徒が多かつたように思います。総探で学んだことを武器に推薦合格を勝ち得た生徒も少なくありませんでした。四十二期の総合探究を全面的にコーディネートしてくれたのが高橋洋充先生でした。浪江町出身の洋充先生の緻密な企画力と幅広い人脈があつてこそ、充実した探究の学びができたことを申し添えておきます。

を迎えることとなりました。受験態勢の雰囲気作りにかなり手を焼いたことを覚えています。唯一コロナの影響を感じた場面は、修学旅行の二日目、大阪・奈良・神戸・徳島・滋賀とバラエティに富んだ選択コースを示したのに、二三三名（学年の九四%）の生徒がユニバーサル・スタジオ・ジャパンを選んだ時でした。中学の修学旅行がコロナによって中止となり、千葉の敵を大阪で討とうとした生徒が多かったようです。大阪三連泊で九千円の補助があり、大喜びで日本最大級のテーマパークを楽しんでいる生徒たちを脇目で見ながら、五十年代のオヤジには苦痛でしかなかつたあの一日も今となつてはいい思い出です。（と一応言つておきます。）

し支えてくださいました東高全ての先生方に心から感謝申し上げます。私自身、東高一期生として十二期の素晴らしい生徒諸君の担任をすることで、教員としての究極のリア充を味わうことができました。

東高二十期代の輝かしい実績を目の当たりにしてきた、国公立大合格者数原理主義の私は「東高のレゾンデートル(存在意義)」は国公立大学の合格者数である!と主張したくなる気持ちを抑えに抑えて、生徒が自らの希望する進路を一人でも多く達成してくれればそれでいいと。うスタンスで学年担任団と四十二期生に接してきました。十二期生に接してきました。担任団には無自覚のうちに有形無形のプレッシャーをかけてしまったかもしません。結果として推薦を含めた国公立大学合格者数は九十八名となり、四十二期生は過去のレジエンダリーな先輩学年にも決して引けを取らない素晴らしい健闘を見せてくれました。

ここで冒頭の問い合わせに戻ります。東高四十二期の卒業生の皆さん、君たちは今、充実した生活を送っていますか?頑張つて苦労して手に入れた「今」が



こんなはずじゃなかったと不満を感じている人もたくさんいるでしょう。でも「今」は限時付きの「今」であって、「今」の後には果てなく長く続く「未来」があります。その「未来」のために、たとえ「今」がどんな「今」であっても「今」を大切に悔いなく生きてください。人間の成長過程の中でも最もかけがえのない三年間をこの学び舎で共に過ごした我々担任団は、四十二期生の 弥栄をいつまでも祈っています。

東北・全国大会出場報告

新しい伝統

テニス部顧問 梅宮 康弘

過去二年、来年こそはという文面でしたが、晴れて全国大会出場報告をさせて頂く喜びを噛み締めております。また、同窓会様には過分なご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

今年の全国高校総合体育大会は大分県大分市レグナックテニスコートをメイン会場に、8月2日～4日団体の部、8月5日～8日個人の部が開催されました。男子団体は、17年ぶり2度目の出場。個人戦シングルスは、昭和61年国分君、平成25年菅野君、同29年度渡辺祐希君に続き本校4人目の出場。個人戦ダブルスは本校生としては初出場となります。

団体1回戦の相手は山口県代表の誠英高校。全国大会にも出場経験のある1年生2人の活躍で山口県大会を勝ち上がった相手です。2面同時展開で始まったダブルスとシングルス1の試合。お互い初めての全国大会の団体戦ということで硬さが見られました。特にダブルスの齋藤

蓮斗（3年）菊地英介（3年）

は、自分たちが勝利しなければ勝ちがないというプレッシャー

からいつもの躍動感が見られませんでした。しかし、相手の緊張感も高く、徐々にペースを取り戻しました。シングルス

1の佐藤琉成（3年）は、ファーストゲームのゲームポイントを取り逃したところか大きく、硬さがあつた相手が徐々に本来のプレーを出し始め、良いストローク戦を展開するも、要所で相手の力強いショットに対応しきれず2-1で敗退。シングルス2の市川偉大（3年）は、調子を崩していたこともあり、本来の粘りのテニスに精度を欠き、対戦相手の1年生らしい外連味のないテニスに対応しきれず1-6で敗退。計1-2で全国大会を終えました。敗退はしたもの、3年生にとって、1年次から主力で戦ってきた集大成を全国大会という晴れ舞台で終えたことは本当に素晴らしいことです。

個人戦シングルス1回戦は、

全国大会常連校の岐阜県麗澤瑞

浪高校の選手。佐藤も自分の武器であるフォアハンドストロークでポイントを取ろうと頑張りますが、サービス・フォア及びバックハンドストロークの強度・精度とも相手選手が高く、

1-6で敗戦。内容は競るもののが浮き彫りになった試合でした。個人戦ダブルス1回戦は、佐賀県鳥栖商の選手。本校選手・対戦相手とともに、アジャストできないままゲームが進んでいましたが、パワーに勝る相手が少しずつ調子を上げていき、抗しきれずに3-8で敗退しました。全国大会の数日間を通して、全国で勝つためには何度か全国大会を経験していくことはないと思われ、10年ぶり4回目の出場は濃厚です。現3年生が築いた新しい伝統は下級生にしつかり引き継がれています。

次年度も同窓会の皆さんに良い報告ができるよう、慢心せず良いスピリットを維持して、新しい伝統を引き継いでいくってほしいと思います。

シングルス1の加藤柊羽（2年）が相手エースを破り貴重な1勝をもたらしたもののダブルス1-2とシングルス2が敗退し1-3で敗退。ファイードインコンソレーションに回りました。

全国大会出場数は4、勝てば出場に前進する戦いです。対戦相手は青森山田で、本校相手にシングルス1とダブルス1-2で勝とうとする布陣でした。勝負のかかるシングルス1で加藤は惜しくも4-6で敗退してしまいましたが、ダブルス1黒津星斗（2年）伊藤綾汰（2年）が序盤から怒濤の攻撃を見せ、少し追いつかれたものの最後は押し

しきり、6-3で貴重な勝利を収めました。ダブルス2伊藤瑞希（2年）伊藤綾汰（2年）が序盤から怒濤の攻撃を見せ、少し追いつかれたものの最後は押し



令和6年度全国高等学校 総合文化祭書道部門 (ぎふ大会)出場報告 今年度の活動成果

書道部顧問 郡司 仁美

令和6年8月1日～3日、岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭の書道部門に、2年生の佐藤歌音が福島県代表として出場してまいりました。佐藤



令和6年度全国高等学校総合文化祭書道部門(さふ大会)
2年 佐藤歌音 「臨 魏靈像造像記」



1年 武田明香里 「臨 蘭亭序」

は高校に入学してから書道をはじめ、中国六朝時代の楷書の古典『魏靈像造像記』に魅了され、毎日熱心に向き合ってきました。横二尺(60cm)×縦八尺(240cm)の紙面に書いた素直で迫力のある大字の書は、昨年度の福島県高等学校総合文化祭書道展で大賞を受賞し、全国総文国総文の展覧会会場は岐阜県の下呂交流会館でした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名作品等、300点の作品が陳列されており、紙や墨までこだわった表現力の豊かな作品で溢っていました。交流会では各県代表の生徒たちと親睦

を深め、情報交換をすることができました。また、作品の合評もあり、自分の考えを言語化し相手に分かりやすく伝える場面もありました。最後の講評会では、講師の先生から「鋭い起筆と収筆で古典の力強さと剛筆さを表現した作品である」とのお褒めの言葉をいただきました。

その他、今年度の活動成果としましては、令和6年11月に行われました福島県高等学校総合文化祭書道展で、1年生の武田明香里が準大賞の結果を残し、祭書道部門かがわ大会への出場権を得ました。全国大会へのバトンが繋がれていること、嬉しく思います。また第69回福島県たなばた展で、3年の高橋朋美

が隸書作品で大賞を受賞しました。今年度は特に個々の作品のレベルアップが見られ、第48回福島県書道連盟展では、団体で文部科学大臣賞を頂くことができました。

現在書道部は7名で活動しています。今後も書の本質や魅力を考えながら、自身の書作品の質を高めていける活動を目標に、引き続き毎日の練習に取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、日々の活動に対するご理解やご協力に感謝いたします。全国総文祭への参加にあたりましては、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきまして心より感謝申し上げますとともに、今後もご支援くださいますようお願いいたします。

一昨年前の駅伝県大会では現3年生の菅野(すげの)、氏家がけがに泣きました。直前に開催された東北新人大会への出場権を得るほど2名は個人で力をつけておりましたが、特に氏家はけがで棄権し、涙をのみました。その年の駅伝県大会では4区に菅野、5区に氏家を配置。1区渡辺(現3年)→3区までの選手だけ走り、1区を走る予定だった菅野が4区で襷を受けてすぐ途中棄権する予定でした(大会運営の皆様すみません)。

私はゴール地点の業務を行なながら、目の前を通り過ぎる3区選手に声をかけ、そろそろ襷権の連絡が入る頃だと思つていません。が、なかなか連絡が来ません。そういうしているうちに5区氏家が足を引きながらコースを走っている姿が小さく見えました。4区菅野は襷を受け



第69回福島県たなばた展 大賞



第48回福島県書道連盟展団体賞文部科学大臣賞

▲第69回福島県たなばた展 大賞

ます。また、1年生の齋藤周真(110mH)は2月の大阪室内陸上大会へのエントリーが決まり、全国の強豪とレースをしてまいります。11月の東北高校駅伝では女子5区間1→3年生まで、昨年度の県駅伝大会からのエピソードを書きたいと思いま

繋がるはずのない襷

陸上部顧問 馬場 大

今年度、陸上競技部は、6月東北インターハイ(福島市)、9月東北新人大会(青森市)、11月東北高校駅伝大会(花巻市)の3つの東北大会に出場いたしました。9月の東北新人大会では2名出場、両選手とも決勝進出

し賞状を手にいたしました。現在、その生徒を含む3名が、県強化選手として選抜されており



▶ 東北高校駅伝大会（花巻）

▶ 東北新人大会（青森市）



が、「その日」が来るまでの我慢や工夫の時間が必要だ、という内容です。陸上以外の場面でも通用する言葉を選手たちに伝えながらこれからも一緒に考えて行きたいと思つております。

最後になりましたが、同窓会の皆様よりご支援をいただき、厳しくも充実した時間を過ごすことができております。次年度は全国大会出場のご報告ができるよう精進して参ります。今後とも応援のほどよろしくお願ひいたします。

会は、3年生の走りに加え、2年生のメンバーも区間上位のタイムを出し、見事東北大会を決めてくれました。余談ですが、私は東北大会出発日と担任業務の修学旅行の出発日が同日だったため、年度当初から駅伝で東北大会を決めた場合は修学旅行へ行かざるを得ないと公言していました、が、泣いて喜ぶ選手の姿を見てしまったので、大会現地でレースに送り出してから関西へ飛ぶことにしました。校長先生はじめ関係の職員の方々には感謝の言葉しかありません。

他の選手たちも自分の目標を掲げ、毎日追われる日々を過ご

第76回全日本合唱コンクール
東北支部大会出場報告

合唱部顧問 佐藤 朋子

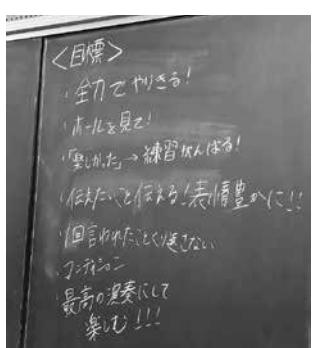
令和6年9月20日、仙台銀行
ホールイズミティ21において第
76回全日本合唱コンクール東北
支部大会が行われ、本校合唱部
は福島成蹊高校と合同合唱団と
して出場しました。2020年
以来の東北大会出場となり、壇
の舞台に立つ生徒たちの表情
は誇らしげで輝いていました。
コロナ禍以降、全国的に合唱
人口が激減しており、今年度は
本校も部員数4名でのスタート
となりました。全日本合唱コン

員のほとんどが合唱初心者であつたため、歌うことの基本から学ぶ必要がありました。合唱は姿勢、呼吸法など発声以前の段階で必要な知識があります。部員たちはつまづきながらも、一つを繰り返し練習し、少しづつ伸び伸びとした発声を身に付けていきました。

自由曲に選んだ「序」
泣いているきみ」は6声
部、アカペラ部分あり、
語り口調ありの難易度が
高めの曲です。全体を通

第76回全日本合唱コンクール 東北支部大会出場報告

合唱部顧問
佐藤 朋子



して疾走感があるので、歌いながら言葉をしつかりと立てる必要がありました。部員たちは果敢に練習に臨みましたが、なかなか形になりません。一つのことを注意すると、以前言われたことを忘れてします。「伸びし過ぎたか」と後悔することも度々ありました。部員たちは毎日楽しそうでした。知らぬ景色を初めて見るようなキャラクタとした目で歌つているのです。結果なんてどうでもいい。自分たちの後悔しない音楽をお客様に届けよう。その想いで臨んだ福島県合唱コンクールで銀賞を受賞。東北大会に出場を決めました。

東北大会後に1年生男子が入部し、現在は3名で活動しています。女声合唱から混声合唱へ。この先の東高合唱部がどのように変化していくか顧問としても楽しみです。今後とも変わらぬ応援をどうぞよろしくお願ひいたします。

続・トキは来た!

(東北大会出場報告)

柔道部顧問 佐々木勝宏

昨年度の同窓会報において、佐渡の朱鷺の如く絶滅の危機に瀕しながらもしぶとく生き残り、東北大会出場を果たした柔

道部の活躍について報告させていただきました。本年度も厳しい現状は変わりなく、現在は二年生一名と一年生二名の計三名で伝統の灯を絶やさぬよう、細々と柔道修行に勤しんでおります。

せめて、柔道家である顧問の

私が稽古で胸を貸せればよいのですが、身体がボロボロでそれもままなりません。ということ

で、週末毎に、その手に握るはずの柔道衣をハンドルに握り変え、加齢のため擦り減つて消失した膝軟骨の代わりに愛車のタ

イヤを擦り減らし、県内外各地へ出稽古行脚を敢行しました。

こうした地道な努力の甲斐あって、高橋至（一一四）が県新人大会と全国高校選手権県予選において二大会連続で決勝に進出し、東北大会出場を果たすこと

ができました。組手は右の相四つです。長身の相手に対し引手で相手の釣手を落としながら試合を組み立てて行きたいところですが、緊張のため動きが硬く、相手に奥襟をつかまれてしまふ展開が多くなりました。序盤、もつれて寝技の展開となり、稽古で磨いた「噛みつき」のテクニックで抑え込みかけましたが、あと一步で逃がしてしまいます。そのまま両者ともに技を打ち合いますが決め手なくタイムアップとなり、延長戦に突入しました。本戦では左の一本背負投を連発しておりましたが、ここで相手の虚を突き右の一本背負投をかけると、これが見事にハマ

り」となり、「東高対決」を制しました。

二回戦では、前日の団体戦で優勝した宮城県の東北高校（これまたダルビッシュ有選手の母）との対戦となりました。シードのため初戦となる宇井選手は慎重な立ち上がりを見せますが、徐々にエンジンがかかります。組手は右と左のケンカ四つ。相手の巧みな組手に高橋技が出せず、消極的として「指導」のペナルティを与えられます。その後は相手の技を何とかかわし、寝技のチャンスもあります。試合中盤になると宇井選手は更にギアを上げ、奥襟をつかんで圧をかけながら大内刈を繰り出します。高橋これをこらえ切れず「技あり」。試合終

りとなり、「東高対決」を制しました。後輩たちへの御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会のますますの御発展を祈念申し上げ、大会出場報告とさせていただきます。

最後となりましたが、今後も後輩たちへの御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会のますますの御発展を祈念申し上げ、大会出場報告とさせていただきます。



10位	B 円盤投	佐藤よしひろ
4*	400m R	予選
島田遼平	・大越郁拓	
石川龍誠	・芳賀洸太	
女子		
A 3000m	B 100m	8位
大宮怜禾		
12位	D 氏家千尋	
大宮怜禾	・山田美桜	
小野莉奈	・佐藤華音	
第64回福島県高等学校新人体育大会陸上競技		
令和6年9月7日(土)~9日(月)いわき陸上競技場	※	
P B..自己新記録	S B..今	
季ベスト記録		
男子 110m H	齊藤周真	
女子 400m H	佐藤華音	
以上2名 東北大会出場権獲得		
男子 800m	B 決勝 8位	大越郁拓
5000m	1500m	800m
400m H	決勝	予選
3000m SC	決勝	予選
砲丸投	森 大隼	阿部聖哉
4*100m R	飯沼颯人	佐藤陸斗
佐藤暖希	1位	森 大隼
佐藤暖希	・島田遼平	齊藤周真
芳賀洸太	・本多瑛貴	佐藤よしひろ
佐藤暖希	・大越郁拓	予選

女子	芳賀洸太・島田遼平
5位	大宮怜禾
400m	3000m
400m	3000m
6位	山田美桜
決勝	決勝
4*	400H
100mR	3位
5位	佐藤華音
三品	森香乃音
山田美桜	小野莉菜
山田美桜	森香乃音
山田美桜	森香乃音
山田美桜	小野莉菜
山田美桜	佐藤華音
山田美桜	佐藤華音
第29回 東北高等学校新人陸上競技選手権大会	第29回 東北高等学校新人陸上競技選手権大会
男子	男子
110mH	400H
第3位	第7位
齋藤周真	佐藤華音
女子	女子
400H	400H
第9位	第9位
細田光祐・石川龍誠	細田光祐・石川龍誠
森 大隼・森 彩隼	森 大隼・森 彩隼
阿部聖哉・飯沼颯人	阿部聖哉・飯沼颯人
佐藤陸人	佐藤陸人
女子	女子
第4位	第4位
菅野心花・渡辺咲夢	菅野心花・渡辺咲夢
氏家千尋・森香乃音	氏家千尋・森香乃音
山田美桜	山田美桜
第60回 東北高等学校駅伝競走大会	第60回 東北高等学校駅伝競走大会
女子	女子
第18位	第18位
菅野心花・渡辺咲夢	菅野心花・渡辺咲夢
氏家千尋・森香乃音	氏家千尋・森香乃音
山田美桜	山田美桜
バスケットボール部	バスケットボール部
▼ 第70回 福島県高等学校体育大会バスケットボール競技	▼ 第70回 福島県高等学校体育大会バスケットボール競技

▼2024 第70回福島県高等学校体育大会バスケットボールリーグ戦	県2部リーグ (7／29、10／20、7／28、9／22、9／29、10／6)	福島県U18バスケットボールリーグ戦 総合、福島東70—66 若松商業
第2節	福島東46—81郡山北 工57、福島東52—77	福島東67—76いわき 若松商業
第3節	福島東92—60いわき 相馬	福島成蹊1st 福島東92—60いわき 光洋、福島東81—61
第4節	福島東69—59会津 入替戦	福島東82—77磐城桜 が丘
▼第61回福島県高等学校バスケットボール選手権大会バスケットボール選手権大会 (10／26—28)	相馬 1部昇格	第61回福島県高等学校バスケットボール選手権大会バスケットボール選手権大会 磐城桜が丘
1回戦	福島東61—53清陵情報	福島東64—104帝京安積
2回戦	福島東87—77磐城桜が丘	福島東64—104帝京安積 ベスト8
3回戦	福島東64—104帝京安積 ベスト8	福島東67—54郡山 会津北嶺
3回戦	福島東71—58会津北嶺	福島東32—106帝京安積 ベスト8

2回戦	福島東70—50いわき湯本
福島東22—110帝京安積	▼第77回福島県総合スポーツ大
会バスケットボール競技	会バスケットボール競技
1回戦	（7／6）
福島東68—74会津学鳳	▼2024福島県U18バスケットボ
ルリーグ戦 地区リーグ（7	／21、7／27、9／23、9／28
第1節 福島東73—40小高・	第1節 福島東73—40小高・
相馬、福島東88—66	相馬、福島東88—66
相馬総合	相馬総合
第2節 福島東143—35福島	第2節 福島東143—35福島
第3節 福島東94—19伊達	第3節 福島東94—19伊達
第4節 福島東62—60相馬	第4節 福島東62—60相馬
総合、福島東46—84	総合、福島東46—84
安達（第4節はすべて	安達（第4節はすべて
交流戦を実施）	交流戦を実施）
▼第61回福島県高等学校バス	▼第61回福島県高等学校バス
ケットボール選手権大会選手	ケットボール選手権大会選手
権大会（10／26—28）	権大会（10／26—28）
1回戦	1回戦
福島東71—57小名浜海星	福島東71—57小名浜海星
2回戦	2回戦
福島東24—100福島東稟	福島東24—100福島東稟
▼令和6年度福島県高等学校新	▼第70回福島県高等学校体育大
人体育大会バスケットボール	人体育大会バスケットボール
競技（1／11～12）	競技（1／11～12）
1回戦 福島東54—69磐城二	1回戦 福島東54—69磐城二
回戦 対会津 0—2	回戦 対会津 0—2
バレーボール部男子	バレーボール部男子
▼第77回福島県総合スポーツ大	▼第77回福島県総合スポーツ大
会バレーボール競技少年の部	会バレーボール競技少年の部

県大会	1回戦	対磐城 0—2 (17—25, 19—25)
▼令和6年度福島県高等学校新 人体育大会バレーボール競技	2回戦	対会津学鳳 2—0 (25—19, 25—21)
1回戦 対安積 2—0	3回戦	対白河 0—2 (17—25, 12—25)
結果 ベスト8	バレーボール部女子	▼第70回福島県高等学校体育大 会バレーボール競技
▼第70回福島県高等学校体育大 会バレーボール競技	1回戦	福島東 2—0 葵 2回戦 福島東 1—2 磐城二高
会バレーボール競技	1回戦	福島県総合スポーツ大会バ レーボール競技少年の部
県大会	1回戦	福島東 0—2 磐城
福島東 2—0 帝京安積	2回戦	▼第58回福島県高等学校新人体 育大会バレーボール競技
福島東 0—2 郡山女子大学附属	テニス部	県大会
▼第41回福島県春季ジュニアダ ブルステニス選手権大会	1回戦	福島東 0—2 磐城
U16男子ダブルス	2回戦	福島東 2—0 帝京安積
2位 加藤柊羽・島貫夏成ペ ア(東北大会出場)	福島東 0—2 郡山女子大学附属	▼第41回福島県春季ジュニアダ ブルステニス選手権大会
U18男子ダブルス	2位 齋藤蓮斗・菊地英介ペ ア(東北大会出場)	U16男子ダブルス
3位 太田泉(他校生)ペア	2位 齋藤蓮斗・菊地英介ペ ア(東北大会出場)	2位 加藤柊羽・島貫夏成ペ ア(東北大会出場)
ベスト8	3位 太田泉(他校生)ペア	3位 太田泉(他校生)ペア
佐藤琉成・市川偉大ペア		

▼ 第41回福島県春季・ジュニアシングルステニス選手権大会
U16 男子シングルス
6位 島貫夏成
7位 加藤柊羽
U18 男子シングルス
1位 佐藤琉成
(東北大会出場)
5位 市川偉大
7位 太田 泉
▼ 第70回福島県高等学校体育大会県大会 (5/31-6/2)
あづま総合運動公園・イン
テックテニスカーデン
男子団体
2回戦 3-0 平工業
3回戦 2-0 安積
準決勝 2-0 福島
決勝 2-0 いわき湯本
1位 (全国大会・東北大会出場)
男子個人シングルス
1位 佐藤琉成
(東北大会・全国大会出場)
3位 市川偉大
5位 太田 泉
7位 斎藤蓮斗
(以上東北大会出場)
男子個人ダブルス
1位 佐藤琉成・市川偉大ペア
(全国大会・東北大会出場)
2位 太田泉・加藤柊羽ペア
3位 斎藤蓮斗・菊地英介ペア
2回戦 2-1 須賀川桐陽
(以上東北大会出場)
3回戦 0-2 郡山

▼第65回東北高校テニス選手権大会（6／15～17）あづま総合運動公園テニスコート	男子団体	1回戦 0—1 3日大山形
	男子個人戦シングルス	
佐藤琉成	1回戦 6—4 (聖愛)	
	2回戦 6—3 (仙台高専)	
3回戦 2—6 (仙台第三)		(ベスト8)
市川偉大	1回戦 2—6 (岩手)	
太田 泉	1回戦 0—6 (青森山田)	
齋藤蓮斗	1回戦 3—6 (青森)	
男子個人戦ダブルス		
太田泉・加藤柊羽ペア		
1回戦 7—5 (青森山田)		
2回戦 1—6 (東北学院)		
佐藤琉成・市川偉大ペア		
1回戦 2—6 (日大山形)		
齋藤蓮斗・菊地英介ペア		
1回戦 1—6 (日大山形)		
▼第77回福島県総合体育大会 (7／6～8)いわき市平テニスコート		
I部男子シングルス	2位 加藤柊羽	
	3位 太田 泉・島貫夏成	
ベスト8 黒津星斗		
I部男子ダブルス	2位	
	3位 太田 泉・島貫夏成	
I部女子シングルス	3位 島貫夏成・黒津星斗ペア	
	3位 田村優歩	
I部女子ダブルス		

▼ 2024 全日本ジユニア東北予選	田村優歩・袖山春花ペア Ⅱ部女子ダブルス 2位
18歳以下男子シングルス	菅野結菜・高橋麗花ペア
佐藤琉成	1回戦 8—6(青森工) 2回戦 8—5(日大山形)
齋藤蓮斗・菊地英介	3回戦 2—6、1—6 (相馬)(ベスト8)
1回戦 3—8	18歳以下男子ダブルス
(青森・八工大二)	島貫夏成
16歳以下男子シングルス	1回戦 3—8(日大山形)
島貫夏成	16歳以下男子ダブルス
加藤柊羽・島貫夏成	1回戦 6—1—8(青森山田)
▼ 令和6年度全国高等学校総合 体育大会(8/1—8)大分 市レゾナックテニスコート	男子団体 1—2 誠英(山口) 男子個人戦 シングルス
佐藤琉成	男子団体／予選トーナメント 男子個人戦ダブルス
佐藤琉成・市川偉大	1回戦 3—8 鳥栖商 (佐賀) (岐阜)
1回戦 1—6 麗澤瑞浪	第58回福島県高等学校新人テ ニス大会(10/5—7)郡山 市庭球場 3回戦 5—0 会津工

決勝リーグ	1回戦	5—0 安積
	2回戦	4—1 日大東北
	3回戦	4—1 福島成蹊 △1位 東北大会出場
女子団体／予選トーナメント	1回戦	3—1 郡女大附
	2回戦	3—2 福島商
決勝リーグ1回戦	2回戦	2—3 安積
	3回戦	2—3 郡山
男子個人戦シングルス	3回戦	2—3 日大東北 △第3位
	2位 加藤柊羽	
女子個人戦シングルス	3位 太田 泉・島貫夏成	
	ベスト8 黒津星斗	
男子個人戦シングルス	3位 田村優歩	
女子個人戦シングルス	2回戦敗退 菅野結菜	
会東北地区大会(10/26~28)	▼第47回全国選抜高校テニス大	
新青森県総合運動公園テニス	新青森県総合運動公園テニス	
コート	コート	
トーナメント	トーナメント	
2回戦 3—2 青森工	2回戦 3—2 青森工	
3回戦 1—3 日大山形	3回戦 1—3 日大山形	
ファイードインコンソレーション	ファイードインコンソレーション	
3回戦 3—2 青森山田	3回戦 3—2 青森山田	
ファイードインコンソレーション	ファイードインコンソレーション	
4回戦 0—3 仙台第三	4回戦 0—3 仙台第三	
△第4位 全国選抜出場	△第4位 全国選抜出場	
▼第51回福島県ダブルステニス	▼第51回福島県ダブルステニス	
選手権大会(1/11~12)	選手権大会(1/11~12)	
いわき市平テニスコート	いわき市平テニスコート	
男子	男子	
3位 加藤柊羽・太田 泉	3位 加藤柊羽・太田 泉	
ベスト8	ベスト8	
島貫夏成・黒津星斗	島貫夏成・黒津星斗	

女子	ベスト16 伊藤瑠威・伊藤綾汰
春花・菅野結菜・高橋麗花	田村優歩・袖山
▼第44回福島県春季選抜ジユニアシングルステニス選手権大会(1/25-26) 南相馬市テニスコート	アシングルステニス選手権大会(1/25-26) 南相馬市テニスコート
18歳以下男子	18歳以下男子
2位 島貫夏成	2位 島貫夏成
ベスト8 (東北大会出場)	ベスト8 (東北大会出場)
太田泉・黒津星斗 ベスト16 加藤柊羽	太田泉・黒津星斗 ベスト16 加藤柊羽
18歳以下女子	18歳以下女子
3位 田村優歩	3位 田村優歩
ベスト16 (東北大会出場)	ベスト16 (東北大会出場)
菅野結菜	菅野結菜
▼ハンドボール部	▼ハンドボール部
第75回福島県春季ハンドボーラー選手権大会	第75回福島県春季ハンドボーラー選手権大会
1回戦 福島東29-21日大東北 2回戦 福島東33-21尚志 準々決勝 福島東21-23日大東北 総合順位…ベスト8	1回戦 福島東29-21日大東北 2回戦 福島東46-16郡山北工 3回戦 福島東18-21郡山 ▼第77回福島県総合体育大会ハンドボール競技 1回戦 福島東26-34帝京安積 ▼令和6年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技 2回戦 福島東31-18郡山 3回戦 福島東30-21日大東北 準決勝 福島東20-39学法石川 男子シード順位決定戦

▼第48回東北高等学校ハンドボール選抜大会県代表決定戦	福島東19-30学法石川	福島東20-26福島工業	福島東29-24安積	福島東21-17安積
リーグ戦	福島東19-30学法石川	福島東20-26福島工業	福島東29-24安積	福島東21-17安積
個人戦	福島東20-26福島工業	福島東29-24安積	福島東21-17安積	福島東21-17安積
ボーラー	福島東20-26福島工業	福島東29-24安積	福島東21-17安積	福島東21-17安積
リーグ戦	福島東20-26福島工業	福島東29-24安積	福島東21-17安積	福島東21-17安積

▼第70回福島県高等学校体育大会バドミントン競技	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東
女子団体出場	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東
男子ダブルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
女子シングルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
高橋綾乃	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
男子シングルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
佐藤潤一	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
女子シングルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
高橋綾乃	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
男子ダブルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
大内悠剛・佐藤琉璃	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
男子シングルス出場	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組
佐藤琉璃	茨木蒼士郎・菅野凌央組	村上浩太朗・吉田樹組	須賀川創英館3-2福島東	茨木蒼士郎・菅野凌央組

▼第43回福島県高等学校総合文化祭(音楽部門)	第44回福島県高等学校柔道選手権大会	第45回福島県高等学校弓道遠の大会	▼第53回福島県弓道遠の大会	▼第46回福島県高等学校弓道遠の大会
第74回福島県高等学校音楽学習発表会	第75回福島県弓道遠の大会	第76回福島県高等学校弓道遠の大会	第77回福島県弓道遠の大会	第78回福島県弓道遠の大会
人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽
▼第62回福島県吹奏楽コンクール	第63回福島県吹奏楽コンクール	第64回福島県吹奏楽コンクール	第65回福島県吹奏楽コンクール	第66回福島県吹奏楽コンクール
8月3日(土)【けんしん】	8月3日(土)【けんしん】	8月3日(土)【けんしん】	8月3日(土)【けんしん】	8月3日(土)【けんしん】

▼第41回定期演奏会	第22回定期演奏会	第23回定期演奏会	第24回定期演奏会	第25回定期演奏会
8月16日	8月16日	8月16日	8月16日	8月16日
（金）【ふくしん夢の音楽堂】	（金）【けんしん夢の音楽堂】	（金）【けんしん夢の音楽堂】	（金）【けんしん夢の音楽堂】	（金）【けんしん夢の音楽堂】
習発表会	習発表会	習発表会	習発表会	習発表会
6月20日(木)【けんしん】	6月20日(木)【けんしん】	6月20日(木)【けんしん】	6月20日(木)【けんしん】	6月20日(木)【けんしん】

▼第43回福島県高等学校総合文化祭(音楽部門)	第44回福島県高等学校総合文化祭(音楽部門)	第45回福島県高等学校総合文化祭(音楽部門)	第46回福島県高等学校総合文化祭(音楽部門)	美術部
第74回福島県高等学校音楽学習発表会	第75回福島県弓道遠の大会	第76回福島県弓道遠の大会	第77回福島県弓道遠の大会	▼第78回福島県総合美術展覧会
人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	人選 阿部夏芽	青少年美術奨励賞・県教育長賞
▼第25回高校生国際美術展	▼第26回高校生国際美術展	▼第27回高校生国際美術展	▼第28回高校生国際美術展	入選 阿部夏芽
8月4日	8月4日	8月4日	8月4日	8月4日

令和六年度

部活動を通して学んだこと 教えられたこと

生徒会

います。

(安田陽南)

私は生徒会活動を通して仲間と協力し計画的に物事を進める大切さを学びました。生徒会活動は一人でできるものではなく、生徒会役員一人一人が責任を持って一つの大きなものを作り上げていくのだと改めて感じました。

生徒会では日々、生徒のみなさんがより過ごしやすい学校生活になるよう生徒のみなさんの意見に耳を傾け、話し合いをしています。また、生徒会行事の準備や運営もしています。どちらも進めるためには一人ではできません。また、効率よく進めるためにも計画的に進めることが大事です。そのため、生徒会役員全員の力が必要です。

生徒会のどんな活動でも一人ではやりきることができないため、全員で協力してしっかりと計画を立てることが大事だと改めて学びました。これまでの活動の中でもみんなと協力して進めてきましたが、これからの活動ではより早めに計画を立てて協力して活動していくたいと思

野球部

私は、福島東高校野球部で主に二つのことを学びました。

一つ目は、仲間の大切さです。日々の練習でつらい時や困難な時期を共に助け合い励ました。

敗やミスをして困ったときに相談できる仲間がいることで心の支えになりました。そしてこれからも仲間と協力し助け合いながら同じ目標に向かって努力していくべきだと思います。

二つ目は、周りに気を配ることです。広い視野を持ちいろいろな事に気づいて行動することです。例えば、先生や先輩などの目上の人々が荷物を持っていたら率先して代わりまわりにゴミを落ちていたら拾うなど自分自身の行動をすることの大切さを学びました。まだまだ周りの人生にサッカーで培ってきたこの力を多くのことに役立てていきたいです。

(中村太一)

卓球部

私たち卓球部は男子11名女子

とをいかしこからの人生でも続けていきたいと思います。

(鈴木諒)

とをいかしこからの人生でも続けていきたいと思います。

サッカー部

私はサッカー部の活動を通して、全力でやりきることを学びました。

他のスポーツでも同じことが言えますがサッカーの練習は楽しいことだけではありません。

身体機能を高めるためのフィジカルトレーニングや、疲れていた中の技術を上達させるために厳しいトレーニングを日々行つてきました。きつくてつらかつたら自分で手を抜いてやることはできます。しかし、結果が出るまで自分自身を追い込み全力でやりきることで自分は成長することができました。こうして得た全力でやりきることはサッカーだけではなく、様々な分野に活かせると思います。つまり、何事にも全力で取り組むことは自分の可能性を広げるということに繋がります。

これから人生にサッカーで

くると思うので、今まで学んできた経験を役立て、今後の人生に繋げていきたいです。

(宍戸健祐)

陸上部

私は陸上部員としてたくさんの方々に支えられて部活動をすることことができました。その中で二つのことを学びました。

一つ目は、仲間の大切さです。私には陸上競技に真剣に向き合い、それぞれ目標を持った仲間がいます。陸上競技は常に競争する競技なので練習でも負けたくないという気持ちが互いに高め合います。

二つ目は、その場の状況に応応することです。競技場が使えない時や雨や雪が降った時、練習できる場所を探し、その時であります。日々の活動を通して学ぶことが立っているのが統率力と行動力です。部長としてどのようにしてたら部全体を上手くまとめることができるのかということを目標に向かって練習しており、自分に何が足りないのか、その目標を達成するために、今課題を無くすためには何を行うべきなのかということを考えながら、切磋琢磨し、お互いを高め合うことができており、目標の達成を成し遂げるために必要な行動力を身につけ、学ぶことができました。私は卓球部に入部してきました。私は卓球部に入部してから今まで沢山のことを学んできました。その学んで来たことは、これから役に立つ場面が出てくると思うので、今まで学んできた経験を役立て、今後の人生に繋げていきたいです。

(島田遼平)

バスケットボール部(男子)

私たちバスケットボール部は、岩倉先生、佐藤先生、栗村先生の御指導のもと、県ベスト8を目指し日々練習に励んでいます。

日々の練習では、全員が声を出して良い雰囲気で活動をすること。泥臭いことを一生懸命行うことと意識しています。また

小銭しかなかつた、なんてこと
もあります。

2つ目に学んだことは、めっちゃ練習がきついということです。まずバドミントンはコートの中をめちゃくちゃ動くので体力の消耗が激しいし、夏体育館暑いしでもうやばいです。正直

私は、部活動を通してたくさんのことを経験し、学びました。残りの期間は短くなってしまいまいしたが、家族や先生方の期待に応えられるような結果を残せるように、ワントームで今後の練習に取り組んでいきたいと思います。

柔道部

部活サボるうかなど何回か思いました。でも頑張って行きました。だつてなんだかんだ言つた。バドミントンがめちゃくちゃ楽しいんですよね。（佐藤琉琥）

剣道部

私は部活動を通して、学んだこと

私はこれまでの部活動を通して、相手への感謝、チームワークの大切さを学びました。柔道は、相手がいて成り立つ競技であって、一人ではできません。

せん。この感謝を柔道だけでなく、日々の生活にも向けていく
くことで立派な柔道家になりたい
と思います。

少人数での活動でチームワークの重要性を学びました。団体戦で三人という厳しい状況で勝つためには、一人一人の技術だけではなく、チーム全體が同じ目標に向かって進むことが大切だと感じました。そのためには、体調管理、けがの防止など一人一人が意識し、日々の練習を大切にしたいと思います。

私は、部活動を通してたくさん

劍道部員として、多くの学びを得たことはこの先必ず役に立つと思います。

弓道部

私が部活動を通して学んだことは、意識することの大切さです。

私が山岳部の活動で学んだことは主に二つあり、一つ目は信頼関係の大切さです。

テント建てや登山ルートの確認などを正確かつ迅速に行い、また、山行中にメンバーの異変にすぐ気付けるよう日頃から信頼関係を築いていくことが大事だと思います。

二つ目は主体的に取り組むことです。行程や登山ルートなど重要な情報を記載する計画書を作りを先輩なしで作るとなつたとき、作り方の詳細がほぼ分かからず、完成したのはとても計画書と呼べるものではありませんでした。そして改めて先輩の偉

また、精神力が身に付きま
た。私は日々の練習や大会で用
うような記録が出ず、悔しい用
いをした事が何度もあります。
一本も的に当たらぬ事があつ
ても、引きずらず次の射に向か
た改善点を前向きに考えること
が大切だと思います。努力は報
われる、と信じ練習に励んでい
きます。

私は、部活動を通してたくさん

吹奏樂部

吹奏樂部

私は部活動を通して、一人
人が自分の責務を全うするこ
と、そして仲間と支え合うこと
の大切さを学びました。

コロナ禍が開け、ほとんどべ
てのことが元通りにできるよ
になりましたが、吹奏楽部人口
はかなり減りました。今の私
も2学年合わせて20人しかいな
せん。活動の中で、やれること
の範囲も狭くなってきていた
す。しかし、人数が少ないから
こそ一人一人が自分の役割を自
覚し、足りないところをお互
に補い合って活動を続けていな
す。人数は少ないですが、素敵
な仲間と先生方に恵まれて、私
は毎日楽しく活動することがで
きています。

私たちが活動でしているの
は、先生方やO.B・OGの先輩
方のご支援、ご協力があるから
です。部員一同心から感謝申
上げます。先輩方から受け継い
だ東高の明るいサウンドをこね
からも繋いでいきたいと思いま
す。引き続き、東高校吹奏楽部
へのご支援、ご協力をよろしく
お願い致します。
(鈴木万尋)

大きさを実感しました。この経験を通して私は説明を聞くにしてもまずは自分で考え、理解しようとしたし、そこから主体的に取り組んでみることが、重要だと思いました。

これらの学んだことを胸に刻んで日々部活動に励んでいきました。

合唱部

私は、部活を通して仲間の大切さ、個性の自由さを知ることができました。

私が合唱部に所属した理由のひとつが姉が合唱部に入部していましたからです。

ただ、姉がやっていたからという軽い理由で入部しましたが、実際合唱を体験して、チームワークがいかに重要で、コミュニケーションがいかに必要か実感しました。お互いに意見や感想を伝えないと、自分たちの理想の音楽は創れません。合唱とは、自分たちの体を楽器として、自分たちの思いを『音』として多くの人に伝えることであります。各学校、団体で奏てる音楽の共通点、相違点に気づき、読み取り、何を伝えたいのかという意図をくみ取る力が身につきます。

(鈴木千怜)

美術部

私は美術部の活動を通して「人に頼ること」の大切さに気付きました。

私が美術部に入部した際は、一年生部員が私しかいなくて、孤立感を感じていました。元々内向的な性格の私は、クラスでも馴染めず、学校という場所に良いイメージを持っていませんでした。そんなある日、美術部に同じ一年生の子が入部することになりました。最初は上手く話せるか不安でしたが、東京研修旅行を通して互いの作品に対し良い所、悪い所など言い合える関係になりました。今まで

に同じ一年生の子が入部することになりました。最初は上手く話せるか不安でしたが、東京研修旅行を通して互いの作品に対し良い所、悪い所など言い合える関係になりました。今まで

さらに昨年度から始まつた写真のプレゼンテーションでは、簡潔にまとめながらできるだけ詳しく、撮影したときの状況や思いを話すことを意識しました。その経験から、相手に伝わりやすいように考えながら話すことの重要性を学びました。

現実にあるものから様々なことを感じ、考えて1回1回シャツターカを切ることで、思慮を深めることのできる、最高の部活だと感じます。来年度はぜひ写真展や文化祭で私たちの作品をご覧ください。

(佐久間健一)

写真部

現時点までの私たちの活動を

合唱は表現の自由の象徴ともいえるでしょう。

私たち合唱部は、少ない人数ではありますが、皆さんに勇気と温かさをお届けするために日々の練習を大切に活動しています。

(鈴木千怜)

入部するまでは何気なく写真を見てきて、どこが魅力的なのかわからませんでしたが、活動を通して、撮る人の喜怒哀樂といった感情、「これを見せたい、伝えたい！」という熱い思いが

1枚の写真に詰まっているように感じました。そしてそれを見た人が、勇気をもらったり、感動したりと心を揺さぶられることが成立する活動であると思いました。

さらに昨年度から始まつた写真のプレゼンテーションでは、簡潔にまとめながらできるだけ詳しく、撮影したときの状況や思いを話すことを意識しました。その経験から、相手に伝わりやすいように考えながら話すことの重要性を学びました。

これからは挑戦で学んだ経験を活かし、部員たちと共に進みながら「挑戦」を続けていきたいと思います。

(安部楓真)

演劇部

私は、演劇部での活動を通して多くの人の前で話すことの楽しさを学びました。私は、スピードなどの注目を集めること

が苦手で、無事に終わっても赤面したり、自分の体温が上がるのを実感したりしていたため練習が上手くいっても本番がとて

も不安でした。ですが、自分の

や活動する機会が少し多くなった。機会が多くなったということは同時に「挑戦」することも多くのことに挑戦し、失敗や改良を加えながら活動を行いました。

その後、自分の体が熱を持つことに気づきましたが、きっとそれは緊張や恥ずかしさからくるものではなく、演じながらも、自分自身を一生懸命に曝け出すことができたからでしょう。これから先、大変な事も、辛い事もきっとあるでしょう。それでも、同じように心と体が熱くなつてもらえるように、たつた一瞬でも心を揺らし、ふと思いつくような体験をさせて貰うために、日々を積み重ねていこうと思います。(梅津志龍)

これからは挑戦で学んだ経験を活かし、部員たちと共に進みながら「挑戦」を続けていきたいと思います。

私は、演劇部での活動を通して学んだことは、互いの作品について活発に意見交換を行い、全体で作品をより良いものにしていくことです。今年度は、私たち書道部は部員の数が昨年度よりも多くなり、新しい挑戦に向かう年になりました。書道部は、9月21日の世界平和デーに福島県護国神社に作品を奉納する「和プロジェクト」というボランティアに参加し、今年度は総1・5メートル、横

書道部

1年間、私が書道部の活動を通して学んだことは、互いの作品について活発に意見交換を行い、全体で作品をより良いものにしていくことです。今年度は、私たち書道部は部員の数が昨年度よりも多くなり、新しい挑戦に向かう年になりました。書道部は、9月21日の世界平和デーに福島県護国神社に作品を奉納する「和プロジェクト」というボランティアに参加し、今年度は総1・5メートル、横

感情を乗せて演じているといつ

の間にか緊張は消え、たくさん的人が自分たちを楽しみにしてくれました。

その後、自分の体が熱を持つことに気づきましたが、きっとそれは緊張や恥ずかしさからくるものではなく、演じながらも、自分自身を一生懸命に曝け出すことができたからでしょう。これから先、大変な事も、辛い事もきっとあるでしょう。それでも、同じように心と体が熱くなつてもらえるように、たつた一瞬でも心を揺らし、ふと思いつくような体験をさせて貰うために、日々を積み重ねていこうと思います。(梅津志龍)

3メートルの紙に、平和への願いを込めた一つの大きな作品を制作しました。制作途中に悩むこともありましたが、先輩後輩関係なく構成に関してアドバイスをし、協力して行いました。

また、福島県たなばた展で最高学校賞、福島県書道連盟展で団体で文部科学大臣賞をいただきました。その他展覧会でも多くの賞をいただき、日々の活動の成果が実った一年になったと思います。これからも、部員一同今まで以上に作品の深い部分まで掘り下げ、書道の魅力を追求していきます。

(佐藤歌音)

ダンス部

大会、地域のイベント、自主公演、これらは全て一人では成功させることができません。部員、顧問の先生、保護者の方々の協力や支えが必要不可欠です。大会やイベントは、主催者の方や関係者の方々などたくさんの方々が協力があってこそ開催できるものです。だからこそ、ダンスができることへの感謝をいつも忘れないようにしています。

また、イベントなど地域の方々からお声かけ頂けるのは、今まで先輩方がマナーや挨拶などを大切にしてきたからだと思います

います。私達も次の代に繋げていけるよう、一人一人が東高校ダンス部FEDとしての自覚を持ち、活動していきたいと思います。

(星野蒼空)

英語部

私は今年度の活動を通じて多くの貴重な経験をしました。特に印象に残っているのは、天栄村のブリティッシュヒルズへ行き英語研修の活動に参加したことです。今回が英語部初の宿泊研修でもあつたため不安な点もありましたがそれ以上の思い出と素敵な経験ができた良かったです。

また今年度は二学期の始業式に新しいALTのジョシュ先生を迎えるました。ジョシュ先生と初めて会話をした時はとても戸惑う事が多くありました。しかし活動を重ねていくごとに部員全員がジョシュ先生と楽しめます。私は英語部に入部し他国の文化に触れる機会が増え、学びの視野がとても広くなりました。

またコミニケーションを取れるようになり今では充実した活動がでできていると思います。

私は英語部に入部し他国の文化に触れる機会が増え、学びの視野がとても広くなりました。これも部員や先生のおかげだと

思っています。今後も楽しく英語の学びを深めて行きたいと思います。

(宮口琴葉)

思っています。今後も楽しく英語の学びを深めて行きたいと思います。

(伊東萌生)

応援プラバン

私たち、桜梅戦や夏の大会などの野球部の試合以外にもサッカー部とハンド部の試合の応援に参加することができます。部員が少なくなっている中での演奏ですが、少しでも選手の皆さんに力になれるようになります。

日々練習をすることができます。今回が英語部初の宿泊合宿でもあつたため不安な点もありましたがそれ以上の思い出と素敵な経験ができた良かったです。

また今年度は二学期の始業式に新しいALTのジョシュ先生を迎えるました。ジョシュ先生と初めて会話をした時はとても戸惑う事が多くありました。しかし活動を重ねていくごとに部員全員がジョシュ先生と楽しめます。私は英語部に入部し他国の文化に触れる機会が増え、学びの視野がとても広くなりました。

またコミニケーションを取れるようになり今では充実した活動がでできていると思います。

私は英語部に入部し他国の文化に触れる機会が増え、学びの視野がとても広くなりました。これも部員や先生のおかげだと

校歌の力

教頭 齋藤 由美



転任者の言葉

われらの知恵の樹を育てよう 櫻のよう

今日は明日の歴史

新しい伝統 おお福島東高

(1・3 省略)

この校歌を初めて聴いたとき、ここ信夫の郷の自然に囲まれ、生徒が伸び伸びと学び成長していく姿が想像でき、今日は明日の歴史 新しい伝統 おお福島東高は、何事にも邁進していく勢いを感じました。

この歌詞のよう、本校は、令和7年度の入学生から【福島東高】は、何事にも邁進していく勢いを感じました。

東高の新しい伝統】になるよう教職員一同、【学びの変革】の実現に向け、不易流行を念頭におきながら研鑽しています。

本校の【学びの変革】を実現するためには、まさに社会で大いに活躍されている世代の同窓生の皆さまのお力を借りしなければならないことが多々ございます。

在校生が校歌を同窓会等で高らかに歌い上げる卒業生とするために、どうぞ皆さまご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

在校生が校歌を同窓会等で高らかに歌い上げる卒業生とするために、どうぞ皆さまご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

福島東高等学校 校歌

2 学ぶことは 日々を新しくすること

吾妻の風 阿武隈の水 空

みちのくの 信夫が丘に

編集後記

令和5年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	中野茂	原町高校
教頭	横山裕之	福島西高校
事務長	固山博之	退職(教育庁 福利課)
教諭	大槻文彦	福島北高校
教諭	濱崎晋	郡山高校
実習教諭	松本健一	平工業高校
教諭	佐藤茂雄	二本松実業高校
教諭	真柴毅	福島工業高校
時間講師	町田郁弥	退職(福島高校・橘高校)
時間講師	金川勇次	退職
PTA雇用職員	對馬綾子	退職

※令和6年度本校継続者は除く

令和6年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	小林寿宣	いわき総合高校	理科
教頭	齊藤由美	福島明成高校	家庭
事務長	菅野稔浩	相双地方振興局	
教諭	佐藤朋子	郡山高校	芸術(音楽)
教諭	佐藤善明	二本松実業高校	理科
実習助手	渡辺浩子	福島南高校	理科
再任用教諭	加藤聰	継	数学
再任用教諭	安齋雅高	継	継
再任用教諭	鬼満亮	継	継
非常勤(月手講師)	菅野和弘	継	継
養護助教諭(月手)	平塚知世	継	継
時間講師	狩野剛	新採用	地歴公民
時間講師	安藤ゆずな	継	数学
時間講師	佐藤智恵美	継	英語
時間講師	富山和美	継	継
専門員	阿部千春	継	継
ボイラー技士兼務	菅野嘉之	継	継
校務員	牧野弘	継	継
業務員	菅野秀之	継	継
会計年度任用職員	神野藤磨	継	継
PTA雇用(兼:校長協会雇用職員)	児玉紀子	継	継
スクールサポートスタッフ	坂本花織	継	継

令和6年度 教育実習生

（同窓生のみ）

氏名	実習教科	期生
菅野 雅喜	地歴(日本史)	39期
佐藤 光雅	数学	39期
吉川 京佑	理科(生物)	39期
遠藤 あゆみ	英語	40期
藤原 秀斗	保健体育	39期
長澤 悠晟	保健体育	40期

を尽くしていきたいなどと考えております。 結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

福島東高校同窓会会報の第21号の発行にあたり、御多用の中同窓会関係者の皆様から、原稿や資料を御寄稿頂きまして厚く御礼申し上げます。

今年度より、会長はじめ同窓会役員の体制が刷新されました。本校の校歌の歌詞にもある「新しい伝統」をまた新役員のもと創造できればと思つております。

会報について、会員の皆様には今後御理解と御協力を賜りたいたい件を記事中に記載しましたので必ずご確認ください。それは、次年度よりこの同窓会報の

いただいて作成しておりますが、昨今の情勢に合わせた変化に対応し、ページ数の縮小そしてデジタル化へと順次移行していくきます。こちらについては、同窓会専用のホームページでも発信していくのでよろしくお願いいたします。

さて、今年度は教科「情報Ⅰ」が共通テストで初めて実施された年となり、難易や出題内容に関することが結果速報やSNS等で話題にあがつておりました。そのような情報を目にし、様々思うところはありました

が、次年度の対応をまた考えて

りますが、試験のため（点数をとるため）だけの教科にはなつてほしくないなというのが正直なところです。

3月に卒業する高校3年生が大学を卒業し就職するのが2029年であり、昨年の編集後記で記載した「2030年という新しい社会の中心」となる人材が今の高校3年生と言えます。共通テストの科目に入ってきたことも「誰もがスマホを手にする時代だからこそ、文理関係なく全員が情報の知識を持ち活躍してほしい」というメッセージで伝えるためだと想像すると納

う一度「情報」をなぜ学ぶのか?を見つめ直さないといけないと思っています。受験指導は大切ですが、受験だけを目標にすることなく、社会を生きる知恵を身に着け、生徒自身が自分で考え、価値観をアップデートできることを、教員を目指して更なる研鑽を積まなければと思つております。

さて、今年度末で、阿部秀男先生、梅宮康弘先生、佐藤直子先生の3名の先生が退職を迎えることになります。長く東高校を支えていた3名の先生とは、同僚となる前からそれぞれご縁があ

方に深く感謝を申し上げたいと思います。特に、佐藤直子先生は、私の担任ではありませんでしたが20期生の担任団の一人であつたため国語を教わり、その後も、教育実習、そして同僚としても長くお世話になり、成長を見守つていただいた存在であります。本当にありがとうございました。

私自身40歳を超え、自分の教員としての型というものが出来てきたものの、不足しているものは多いため、時間が許す限り東高をよく知る3名の先生から「今の東高」「次年度から変わ

形も刷新されることとなります。記事に掲載したとおり、本

いかなければと思っておりま
す。ただし「情報」を科目とし

得できそうですが、「試験のための知識」となつてしまふとその

り、様々な場面でお話しさせて
いただくことができ、ありがた